

～教育文化学部生のための交換留学～ アメリカ・エヴァグリーン州立大学 留学報告

教育文化学部 立元瑛

○留学先： アメリカ・ワシントン州、エヴァグリーン州立大学

○留学期間： 2009年9月～2010年6月(秋9月～12月、冬1月～3月、春3月～6月)

○渡航時の学年： 3年次

○渡日前の手続について

・留学に至った経緯について：

自分の英語力を高めたいということと、実際に生活をする中で異文化についての理解を深めたいということが留学をしようと思った理由です。また、宮崎大学でエヴァグリーンからの交換留学生のチューターをさせていただいたことも留学を決意するきっかけとなりました。

・大学での手続について：

・宮崎大学での手続き
留学願、派遣志願書の提出

・エヴァグリーンでの手続き

The Application form, Personal statement, The financial statement documents, Official transcript, TOEFL scores, Completed information form の提出、寮の申し込み、受講登録

・査証取得：

・申請先： 在日米国大使館
・申請時期： 渡米約1か月前
・必要書類： パスポート、DS-156、カラー写真、申請料金の領収書、DS-158, DS-2019, I-901 SEVIS 費確認書、財政証明、成績証明書、返信用封筒として宛先を記入したエクスパック 500、面接予約確認書、クリアファイル

○留学体験記：

・寮の環境

ルームメイトが5人のアパートメントスタイルの寮に住んでいました。それぞれに個室があり、台所とリビング、お風呂、洗面所、トイレは共用となっていました。個室には勉強机とベッド、たんす、クローゼットが備え付けられているので、こちらに来て家具を購入することはありませんでした。また、調理器具などはルームメイトが決まった時点でそれぞれが何を持ってこることができるかをメールで話し合い、持ち寄りました。ルームメイトには分からないことや課題について教えてもらったりと、いろいろな面で助けてもらいました。

・大学の環境

留学生の担当の方がいて、その方に授業（レポートの添削など）や日常生活に関するアドバイスをいただけていました。図書館やコンピュータ室などが、結構夜遅くまで開いていました。基本的には寮で自炊をしていたのですが、お昼ご飯や忙しいときの晩御飯などは学校にビュッフェ式で食事ができる学食や、ピザやサンドウィッチが購入できるお店な

～教育文化学部生のための交換留学～

どがあったので利用していました。また、フィールドや室内プール、ジムなども学内で利用できます。大学や大学周辺やとても自然豊かで、野生のリスなどが寮の窓から見えたりしていました。

・授業内容

エヴァグリーンでは2種類の授業を現地の学生と一緒に受講しました。1つは American Stories という 16 単位のプログラムを受講していました。主にアメリカ文学を通してアメリカの文化や歴史等について学びました。16 単位の中にいろいろな要素 (Writing や Literature など) が含まれており、1 週間を通して授業が組まれています。

たとえば、最初の学期の場合は以下のような予定でした。

火曜日：9:30-11:30 Pre-seminar (本のレポートを生徒だけで4-5人のグループで話し合う)

12:00-2:00 Seminar (先生と共にクラス全体で本についての意見交換や議論を合う)

2:00-5:00 Workshop (主に物語のプロジェクト)

水曜日：9:00-10:00 講義やプレゼンテーション

11:00-1:00 Writing seminar (各自のエッセイについて意見交換や議論を行う)

金曜日：10:00-12:00 Seminar、1:00-4:00 映画鑑賞など

最初の学期にはフィールドトリップでワシントン州東部に行き、州立公園に滞在しながらダムを見学したり、小さな町でインタビューを行ってその町の歴史等を探ったりしました。また、学期ごとに project というものがあり、秋はクラスメイトにインタビューをしてその人の story を書きあげ、冬は「19 世紀のアメリカ」というテーマのもとに自分で文献を調べて、レポートを書き (research project)、最後の学期は research project ややりたい人はインターンシップをしました。学期の最後の週にはこれらの project についてのプレゼンテーションを行いました。

また、The Evergreen Singers という合唱の授業も受講していました。この授業は evening class という午後から夜にかけて開港される授業でした (この授業の場合は 18 時~20 時)。コンサートなどもあり、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。

・学生の様子

それぞれの学生がさまざまな分野に関心を持っており、同じ授業を受講していても様々な意見を聞くことができとても興味深かったです。クラスメイトやルームメイト、同じ寮に住んでいる学生との交流と共に、日本に留学していた人や、大学で日本語を学んでいる人、高校等で日本語を学習した人との交流もあります。

他の留學生の様子は、留學生向けのプログラムはなかったもので、それぞれが関心のあるプログラムを受講していました。学校内で会ったときに話をしたり、特に日本人の交換留學生とは友だちを紹介しあったり、情報交換をしたりしていました。

・生活環境

バスで 20 分程度のところにはモール (宮崎で言うイオンみたいなところ) や食料品店等がありそこでほとんどの買い物を済ませることができました。学生証を提示すればバスを無料で利用できるのが気軽に買い物等には行くことができました。学生だけでなくいろいろな人が顔見知りではなくても微笑んでくれたりあいさつをしてくれたりしました。

派遣先で学んだこと

この 10 ヶ月間、本当にあっという間でしたが、とても充実した時間を過ごさせていただきました。授業では、クラスメイトの発言には感心させられると同時に、はたして自分がどれだけ日本の文化や政治などについて知っているのだろうか、そしてそれらのことについて自分なりの意見を持つようとしていただろうかということを考えさせられま

～教育文化学部生のための交換留学～

した。また、春の学期のプロジェクトでは、言語教育をテーマとし、その一つの要素としてこれまでの私の英語教育に関する経験を振り返ったのですが、それを通して、過去だけではなく、自分の現在、そして将来を考えるととてもいい機会となりました。この留学を通して、英語を使わなくてはならないという環境に身を置き、英語力を高めることができたことはとてもいい経験になったと思いますし、いろいろな人々との出会いを通して自分と向き合うという機会を得られたことも、この留学での貴重な収穫だったのではないかと考えています。

また、留学の最初の時期は、相手が何を言っているのか、今何をしなければならないのか分からないこと、私が言いたいことがなかなか相手に伝わらないことが多々ありました。しかし先生方をはじめクラスメイトやルームメイトたちが一生懸命私が理解できるように説明してくださったり、私が言っていることを理解しようとしてくださったりし、伝えようとする大切さや、相手を理解しようとする大切さを強く感じました。

10ヶ月間、本当に一言では言い表すことができないほどの経験をさせていただきました。この経験をこれからどう活かしていくのかを考えながら、宮崎大学での残りの学生生活を一生懸命頑張っていきたいと思っています。

○今後、留学を希望する宮大生のみなさんへ

- ・TOEFLに向けての勉強や留学が決まったらビザの書類などの準備などに早め早めに取り組むこと。
- ・TOEFLの特にSpeakingやListeningは自分で勉強するのは難しかったので、英語科の先生方にアドバイスをいただいたり、指導をしていただいたりしました。